

差別のない明るい町を

マナーと人権

その3



「高齢者に座席を譲る」

昨年の読売新聞11月7日の「気流」欄と11月13日の「ティータム」欄に、

標題に関する投稿があったので、紹介します。皆さん、共に考えてみませんか。

“大人を説諭した子に驚かされる”

電車通学をしている高校生の娘が帰ってくるなり、「今朝、電車で痛快なことがあってん」と話し始めた。

通勤通学客で混み合っていた車内の座席に、5歳ほどの男の子とお父さんらしい男性が座っていた。ある駅に着くと高齢の女性が乗車してきて、その親子らしい2人は席を立った。ところが、人を押し分けてきた30歳前後の女性が、その席に座った。一瞬の出来事で、周りの

人はあぜんとして見ていたらしい。

すると、あの男の子が「それはバアバの席だよ。おばちゃんもちよつとバアバだけど、あつちの方がもっとバアバでしょ。席を譲ることを教えてもらわなかったの？」と諭したそうだ。

車内に笑い声がわき、女性には顔をゆがめて席を立ち別れの車両に移ったという。幼いながら大人に説諭した男の子の利発さに驚き、親のしつけにも感服した。娘の話聞き、すつきりとした気分になった。

(大阪府 高嶋祥子)

“ごめん、金髪ピアス君”

先日、「正倉院展」を鑑賞するため電車に乗り込んだ隣の座席は金髪にピアスをした今風の少年が2人。少しだけ怖いと感じた。

ある停車駅で、大きなリュックサックを背負ったおばあさんが乗ってきた。すると、少年はサッと席を立ち、席を譲った。その紳士然とした立ち居振る舞いに、正直驚いた。おばあさんは席に座るとリュックサックからせんべいを取り出し、2人に手渡した。「ありがとうございます！」。笑顔ではきはきとお礼を述べる2人の言葉遣いにも感心した。

ご老人に席を譲り、好意に対して礼を言う。そんな当たり前の光景を目にすることが少なくなつた気がしてならない。正倉院展もすばらしかったが、少年たちの行動のお蔭で、さわやかな一日を過ごせたのが何よりうれしかった。

人は見かけで判断したらいけませんね。ごめん、そしてありがとうございます。金髪ピアス君。

(滋賀県 中川久美子)

市人権推進課(教育庁舎1階)

TEL 32・21122
FAX 33・3525

市民文芸 花みずき歌壇(295) 松並武夫・選

旗山の名馬に跨る「義経像」景気祝うがに前足の迫力

立江町 榎 ツギエ

《評》源平合戦で源義経が旗山の山頂で源氏の白旗をかかげ士気を高揚したとされる、日本一高い義経の騎馬像。その勇姿はまさに小松島のシンボル。義経と一体となり今にも駆け出しそうな名馬の「前足の迫力」に景気の上昇を重ねた会心の作品。

遠き日に訪いたる京の息子の

下宿ほころび初めしや下鴨の梅

横須町 三宅 敏恵

厨より眺める木々の葉ゆるぎなし足鍛えんと万歩計持つ

江田町 深田 伴子

亡き母よ今も在りせば共に出て

畦のよもぎを摘みたきものを

中郷町 東野 典子

二束の年越し蕎麦は茹であがり夫と二人のつましき晦日

田浦町 太田カツミ

窓の外冬とは言えど太陽が笑み始めたり今日が始まる

神田瀬町 小寺 雍子

初詣で燃ゆる大焚火に十人揃いの津軽三味線天まで届く

赤石町 田原トシ子

息とわたし「今年もよろしく」と礼交わし

丸餅雑煮のお椀もち上ぐ

神田瀬町 大西カヲル

正月も何することもなく過ぎて痛む腰曲げ法要に行く

榑瀨町 松下 玉枝

津乃峰の頂上より見ゆる橋湾は霞棚引き阿波の松島

坂野町 橋本千代乃

黄の色の絨毯敷き詰めし銀杏葉に

もみじも混とりて色の鮮やか

立江町 森本 幸子